社会科の授業を担当される先生方へ回覧してください

令和４年３月１１日

第４回こだまの会報告

３月４日（金）に第４回こだまの会が開催されました。こだまの会とは、信州社会科教育研究会長野上水内支部で運営する、社会科の授業づくりについて悩みを共有し合ったり意見交換し合ったりする会です（社研に入っていない先生方も大歓迎です）。今回も他支部の先生方にも参加していただき、社会科における自由進度学習やパフォーマンス課題について、情報交換や意見交換をすることができました。今回は特にパフォーマンス課題について話題が盛り上がったので、その様子をご紹介します。

こ　根気よく

だ　団結して

ま　まっすぐに

の　のびる

会

上伊那支部の北澤先生（当日は欠席）が紹介してくださった「パフォーマンス課題」の実践について、以下のような感想や疑問が出てきました。

感想①：自分もパフォーマンス課題を一昨年度よりやっているが、素晴らしい取り組み。単元の見通し、問い（課題）等、参考にしたい。

感想②：生徒の学びの姿が素晴らしい。これだけ書ける生徒に育てているのはこれまでの北澤先生の授業の蓄積があるからこそ。

感想③：特にドラえもんで説明している生徒が素晴らしい。こういう生徒を育てたい。

意見①：パフォーマンス課題は教師側が毎回指示を出さなくても、生徒が見通しをもって進められるので良い。指導要領にある主体的に学ぶ姿も評価できるかも。

意見②：人物の立場に立たせると思考しやすい。小学校では歴史は人物学習だから、中1からでも入りやすいかもしれない

質問①：問いがおもしろくて本当に練られている。これは先生が一から考えたのか？

質問②：パフォーマンス課題は、単元内のいつ提示するのか？また、課題は非常におもしろいが、生徒から生まれる問いではなく、あくまで教師から提示する課題だと思う。問いによっては生徒がのってこない時もあるのか？

質問③：人物の立場に立たせることで、当時の時代背景や状況を多面的にみることができると思うが、様々な人の立場（ルーブリックでいう多角的という視点）は、単元のなかでみられる（評価できる）のか？また今回の単元では、生徒のどのような姿から多角的に考えたと評価したのか？

会で出てきた【質問】に対して、再度北澤先生へ聞いてみました。以下は北澤先生の答えです。

①の答え：明治図書から「パフォーマンス課題を位置付けた授業プラン&ワークシート」が出版されていて、それぞれ地理・歴史・公民と実践例の紹介がされています。同じシナリオで授業をすることもありますし、生徒が食いつきそうなシナリオに少しアレンジすることもあります。全く新しいものを作り、東部中社会科でも共有もしています。

②の答え：紹介させていただいた明治維新についての実践では、予算案を生徒に考えさせましたが、実際の予算を知ると生徒たちが予想以上に驚き、単元終末にも関わらず、新たな問いが生まれました。上伊那の先生方からは、単元の初めに扱い、単元を通して明治政府の国づくりに対する理解を深める手もあるよね、と教えていただきました。なので、単元の導入時に提示する方法もありますね。（導入時に提示する事例もちらほら見られます）最近は、アイパッド・キーボードを使い、スクールタクトで共有しています。書くことが苦手な生徒はこっちの方が楽なようです。シナリオに限らず、パフォーマンス課題は嫌い！という生徒もやはりいます。

③の答え： 今回の授業は、明治維新の諸政策を学ぶとともに、人の動き（アナザーストーリーとして）に着目してきました。特に日本人が朱子学から脱却していく上で、大久保・西郷・渋沢・岩倉・大隈などの功績や困難について授業内で扱ってきたので、　欧米列強の影響や国内政治の矛盾（本当はこうしたいんだけどできない・理屈ではそうなんだけど…）について書ければ評価しようと思いましたが、実際はなかなかそこまで記入できている生徒はいませんね。　多面的・多角的という部分を１年生や２年生には、優しい言葉に変えてルーブリックをつくるとよりゴールが明確になることもわかりました。

会のなかでも「自由進度学習やパフォーマンス課題等色々な学習形態をまず経験させたい」「どのような社会科の授業をしたいか生徒から吸い上げ、教師と生徒のズレを確認しては？」という話があがりました。いずれにしても、まずは教師がtryしてみることが大事かとも思いました。

信州社会科教育研究会

長水支部支部長　　　　三井邦裕（中条中学校）

評議員　　　　酒井文子（七二会中学校）

こだまの会担当　　　　中村広登（市立長野中学校）

℡　026－278－3053　（中村携帯　090－1867－7564）

１年間こだまの会へのご参加、ご協力いただき、ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。